

令和4年度第5回小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会

会議結果報告書

1. 日 時 令和4年6月30日(木) 14:00~15:30
2. 会 場 小山市立文化センター 小ホール
3. 出席委員 14名出席(4名欠席)
4. 懇話会

◆議事及び事務局説明事項

(1) 報告事項

① 「前回(第4回)の懇話会について」

前回の懇話会を踏まえ、本会設置の経緯について補足説明

② 「市民アンケート結果について」

(2) 議事及び事務局説明事項

① 提言書(案)について

② 意見交換

上記について、報告及び説明を行い、ご審議をいただきました。
委員からの主な意見等は次のとおりです。

【委員の主な意見等】

質問・意見等	事務局回答
・提言書(案)の文字について、「子供」の「供」という字は、ひらがなで「子ども」としていただきたい。	・そのようにいたします。
・提言書(案) P3「社会教育主事及び社会教育士の配置に関すること」について、「社会教育士(特に教育委員会職員でなくても、行政職員でなくても、必要条件を満たせばだれでも称することができる)」のうち、「必要条件」というのはどういうことを指すのか。	<p>・社会教育士の資格は令和2年度に文科省によって創設されたもの。</p> <p>・社会教育主事の資格をとるためには、大学や研修等で必要単位数を取得後、実務経験を3年以上経た上で教育委員会が発令する必要がある。そのため、社会教育主事は行政職員かつ教育委員会職員でないと発令されないものである。</p> <p>・社会教育士は大学や研修等で必要単位数を取得すれば、行政職員でな</p>

別紙 1

	<p>くても、民間企業や NPO 団体などの方が名乗ることができるようになったものである。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・提言書（案）P4「人材育成」のうち、「自立し成長した市民となるための」という部分はどのように捉えればよいか。 ・「自立し成長した市民になる」というのはどのような市民になっていけば望ましいのか、そうでなければいけないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の懇話会で、「自主企画講座を市民の皆様が体験することで成長していくことを大変期待しております」との発言をいただいたことを踏まえたもの。 ・事務局の意向としては、自主企画ができて、自分たちでいろいろな講座ができるようになるとうい思いがあったが、もう少し分かりやすい表現としたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・「自立し成長した市民」について、前回発言した者だが、「ただ学んであよかっただけではなくて、自ら学びを見つけにいてその課題を読み解き、新たに企画する側に立って発信する」という取り組みが素晴らしいという意味での発言だった。 ・「自立した、成長した市民を多く生み出していくことは小山市にとっても市民協働につながるし、これから生涯学習センターを運営していく上での大きな力になると思う」という意味あいでの発言した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいたご意見を汲んで、事務局で手直しをしていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・この提言書は、これからの5年間で土台をつくっていくというもので、市が生涯学習の全体を把握した上で行うということだが、この5年間で生涯学習センターに生涯学習係を持っていくということ、既にそのような方向性ということではよろしいか。 ・この方向性で動いていくための経費の件などいろいろな関係でどうかと思うところがある。利用者としてはもう少し余裕のあった運営ができるとよいな 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の懇話会で令和5年度からの5年間については生涯学習系の全員が生涯学習センターへ行き運営をしていきたいというご説明をし、それに対して了承をいただいたことからこちらの提言書につながったと考えている。

別紙 1

<p>とと思っているが、このまま進めるということであれば、市民のための講座内容となるようにしていただきたい。</p>	
<p>・進捗状況やコスト、施設の稼働率などについて検証するための検証委員会のような機関を毎年設けていただきたい。</p>	<p>・検証機関については、提言書（案）の P3 に「運営委員会を設置すること」と記載しており、今後は条例改正を行った上で、生涯学習センター運営委員会という形で設置する予定である。この運営委員会は、今後の生涯学習センターのいろいろな事業等について検証していただき、ご意見をいただくものである。</p> <p>・提言書をいただいた後、12月議会に上程をする予定。承認をいただければ、今年度3月までに運営委員会メンバーの選出依頼をし、来年度4月からご意見をいただきながら生涯学習センターの運営をしていきたいと考えている。</p> <p>・運営委員会については、懇話会のメンバーの方にもぜひ入っていただき、継続してご意見をいただきたいと考えている。また、その他、若い方にもメンバーに入っていただきたいと考えている。</p>
<p>・運営委員会は、実際どのように運営するかについて検討するものなので、経験や知識のある方が入る必要があると思う。</p> <p>・懇話会は学識者や法律家などいろいろな専門性を持った方が入るとよいと思う。</p>	<p>・来年度の懇話会では、令和5年度の生涯学習センターがこのようなになっているというご報告をさせていただきたいと考えている。</p> <p>・運営委員会については、いろいろな検証などをしていきたいと考えている。</p> <p>・フォーラムやアンケートについても、今後継続していきたい。</p>
<p>・懇話会についてなぜ任期が2年なのかと不思議に思っていたが、要は少なく</p>	<p>・おっしゃるとおりです。</p>

とも1年半くらいはお目付け役として必要とされるという考え方でよろしいか。

・提言書(案)の付帯意見の位置づけについて。生涯学習センターでそれが実現できるかどうかをチェックする視点として捉える必要があるのでは。

・提言書(案) P5④「生涯学習センターが子供達の学びや成長を支える地域の取組を支援することを望む」について。
→主目的は子どもの育ちとし、関わる大人のつながりづくりから地域づくりに、という方向性から「子どもの育ちを軸に据えた市民の絆づくりの推進を望む」とし、その下に箇条書きで「地域全体で子どもの学びや育ちを支えるための体制づくり」、「地域住民の子どもの教育に関する当事者意識の高揚」、「市内の小・中・義務教育学校、高等学校、高等教育機関との連携強化」、「市内の地域学校協働活動の情報共有」がくると良いのでは。また、前回の懇話会で家庭教育支援について重要なキーワードが挙がっていたことから、「家庭教育支援の充実」「親の育ちとつながりづくりを応援する学びの機会の充実」「親子を孤立させない取組の推進」「支援のネットワークを広げる体制づくり」「子どもを核とした市民相互信頼の構築」等も入れると良いのでは。

・提言書 P5⑤「人生100年時代を見据え、自らの人生を設計する過程において、全ての人の生涯にわたって活躍するために必要な学びの場となり充実することを望む。」について。

→少し長いため、国の第三期教育基本計画のキーワードも用い、「共生社会の実現に向けた生涯学習の充実を望む。」と

<p>いう表現が良いのでは。また、その下の箇条書きは、それぞれ、</p> <p>ア)「人生100年時代を見据えた生涯学習の展開」→「全ての人が多様なライフステージに応じて、学ぶ幸せを実感できる生涯学習の推進」</p> <p>イ)「多様な人が共に生き生きと学べる学習機会の充実」→「障がい者の生涯学習の推進」、「外国人住民を対象とした学びの支援と「地域住民」としてコミュニティに積極的に参加できる豊かな地域づくりの推進」</p> <p>等の表現にすると良いのでは。</p> <p>・提言書(案)P4③「子供たちや若者が事業計画の立案から参画し、多彩な事業で活躍できる仕組みが作られることを望む。」について。</p> <p>→大きな目的・ビジョンがみえないため、「次代の小山市を創造する子ども・若者の自己形成のための支援を望む」とし、その下にP4の言葉を加えていくとよいのでは。</p>	
<p>・上記提案について。学校教育の先生方が受け入れることのできるような具体的な施策をもとに言わないと、現場の先生方は困ってしまうのでは。小山市に実際に存在している団体や、市の支援体制を把握し、具体的な案をつくった上で文言をつくっていくと良いのでは。</p> <p>・より現場の子どもたちに届けていくということから、今後運営委員会なり協議会なりに継続的に託される仕事になると思う。市役所が建設的に提案やリーダーシップをとって、現在の具体的な問題点や課題などを踏まえて議論ができると良い。</p>	<p>(鈴木正俊委員)</p> <p>・教育委員会部局だけではなく、他部局との連携、市民が中心になって活動している団体との連携等視野に入れて、具体的に考えていければと思う。</p>
<p>・今後5年間の進め方について。1年ずつ運営委員会等で進捗が管理されるの</p>	<p>・基本理念は5年間で計画している。今後については、長期のもの</p>

別紙 1

<p>か、5年の中で「1年目はこういうことをする」というように具体的なことを検討するのか。</p>	<p>年次計画等と組み合わせつつついでいけたらと考えている。</p>
<p>・付帯意見1～6それぞれの項目について、もう少し統一できると良いのでは。具体的な部分が挙がっているところとそうでないところについても、もう少し調和をとった文章になると良い。</p>	<p>・そのように検討していきたい。</p>
<p>・市長、教育長への提言ではあるが、この提言書を基に実際は活動するのだから、一つ一つの言葉をかみ砕いて、誰が見ても分かるような形でまとめる必要があるのでは。</p>	<p>・言葉についてももう一度全部見直し、誰にでも見やすく、分かりやすい表現になるよう検討していく。</p>
<p>・今まで出てきた問題に対しての目標がある程度書かれているのが今回の提言書だと思うが、今後はそれを基にどのようにアクションしていくか等の具体案を進めていくことが、市民にとってはより分かりやすい方向性になると思う。</p>	<p>・委員の皆さんと一緒につくった提言書は、生涯学習として目指していくべきものだとは強く感じている。全てを4月から一斉に行うのは難しいが、少しずつ一つ一つ手掛けていけたらと考えている。</p>
<p>・この懇話会発足にあたっての一番の問題は、生涯学習センターが委託の場合と直営の場合のコストの部分が挙がり、議会で議決されなかったことだと思うのだが、このことについて提言がなくて良いのだろうか。</p> <p>・私たちは資料があるので分かるが、一番の課題だったものについての回答が提言書に入っていないで大丈夫なのか。</p>	<p>・提言書(案) P2に「今後の小山市の状況に応じた運営形態を探るため、令和5年度からまずは5年間を部分委託も導入しながら生涯学習センターを市職員による直営によって運営するととともに、事業計画を職員が直接担い、試行期間として実践する期間とすることが適当である。」と記載をしており、前回の懇話会でコスト面についても説明をさせていただいた。</p> <p>・具体的な数字は提言書には入れないものと考えているので、提言書(案) P2の「時流に合わせた理念とコストのバランス」といった部分で意識して表現している。</p>
<p>・コストについて、懇話会に入っている市議会議員の3人の方たちも納得したのだからそれでよいと思う。</p>	

別紙 1

【その他】

- ・ 条例については今後事務局一任とし、今回事務局が説明した方向性でとりまとめて議会で判断いただくということで委員の皆様の了承を得た。
- ・ 提言書（案）P6「おわりに」については、陣内会長が委員の皆様の代理として執筆することになった。
- ・ 次回の懇話会では、今回の意見を踏まえた上での最終案（確定版）を事務局が提示し、委員の皆様に最終確認していただき、確定としたい。

◆次回の日程(7/11 開催)についてご連絡し、閉会しました。